

第十四回 花崎会

プログラム

万歳 花崎ひさ
黒髪 原玲子
花の旅 安藤恵子
水鏡 池内宏美
茶音頭 金塚さくら
大仏 花崎鈴千代
菊の露 花崎叶和
虫の音 花崎杜季女

葵上 花崎玉女
鐘が岬 花崎吟松
八島 花崎名美治
鏡 花崎しの
山姥 花崎杜季女

地唄舞

地方

小原直
菊央雄司
久保浩助
藤舎千穂

特別参加

鈴木竜

日時: 令和6年 9月23日(月・祝) 13:00開演(12:30開場)

場所: 観世能楽堂 (GINZA SIX 地下3階)

〒104-0061 中央区銀座6丁目10-1 〈電話〉 03-6274-6579

料金: 7,000円(学生 2,000円)

主催: 花崎会 共催: 一般社団法人 地唄舞普及協会

問合せ先:

一般社団法人

地唄舞普及協会

電話 080-3933-8731

Fax 03-3444-0058

jiutamai.fukyu@gmail.com

第十四回 花崎會

地唄舞

プログラム

万歳

正月に、角付けといい一軒ずつ家を廻り、家の繁栄と豊年を祈り舞うという芸能行事がありました。これを万歳と呼びます。正月の華やかな町の景色が描かれています。

黒髪

黒髪は女性の美の象徴としてとらえられています。今は去っていった人への想いを舞う「艶物」という作品群の中の代表曲です。

花の旅

滋賀県の間土山(あいのつちやま)を出発して、伊勢参りに向かう道中巡ります。風光明媚な坂の下、筆捨山、櫛で有名な柘植など、江戸時代に戻って体験するのも楽しいのではないのでしょうか。

水鏡

この曲は、「近江の水鏡」と冒頭の歌詞にあるように、琵琶湖の水鏡を指し、湖畔の名所を読み込み、亡き人への断ち切りがたい思いを表現しています。

茶音頭

お茶のお点前を舞の所作に取り込み、その中に淡い恋心を被せて表現しています。

大仏

今は存在しませんが、京の方広寺の大仏様と、奈良の大仏様が、恋仲でという舞です。大らかに、ゆったりとした雰囲気を感じていただければ幸いです。

菊の露

花崎流では名取りになるための試験曲となっています。菊の露は、古来は目出度い長寿の印でしたが、この曲では、亡き人を偲ぶ花として菊を出し、そこに落ちる露に涙を連想させています。

虫の音

秋の虫の声 松虫はチンチロリン、鈴虫はリンリンリン、きりぎりすはキリハツタリチョウ。様々な声が曲の中で聞かれます。亡き人を呼ぶ声なのでしょうか。今回は、特別な振り付けで舞われます。

葵上

源氏物語で有名な「葵上」の物語です。光源氏の正妻の葵上は、愛人の六条御息所の生霊にとり憑かれ、息絶えていくのでした。

鐘が岬

有名な道成寺の物語です。「鐘に恨みは数々ござる」と、道成寺の鐘を訪れるところから、始まります。

八島

平家鎮魂のため八島を訪ねた西行法師のもとに、源平の武将たちの霊が現れ、戦いの様を語るものでした。

鏡

「白雪姫」の継母を主人公にした作品です。竹田眞砂子氏作詞、小原直氏作曲です。老いと美という現代にも通じるテーマです。

山姥

地唄の山姥は、元遊女が異界の者である山姥となり、山巡りして去っていくという歌詞となっています。山姥は、口減らしのために山に捨てられた老婆を哀れみ作られた創造物とも言われます。